

高時川上流漁場の水温モニタリング調査

吉岡 剛

1. 目的

県内河川漁場では、アマゴ・イワナ・ニジマス・アユ等が漁業権魚種に設定されている。

近年、夏期に猛暑日が続き、河川が渇水になる状況が見られ、河川水温が以前より上昇している可能性が考えられる。

効果の高い種苗放流を行うには、魚種ごとの適水温を考慮する必要がある。そこで、丹生川漁協の漁場について、夏期の水温モニタリングを実施した。

2. 方法

令和6年5月24日に、丹生川漁協の漁場内で工事による立ち入り禁止区域より下流の3地点にデータロガー（ONSET社製 HOB0 Pendant Data Logger UA-002-64）を設置し、1時間毎の水温を測定した。

水温測定地点は、上流が佐惣平橋（余呉町下丹生）、中流が八田部橋（余呉町上丹生）、下流が平篠橋（余呉町菅並）とした（図1）。ロガーは、令和6年7月29日、8月23日、11月1日に回収・交換し、回収したロガーから水温データの読み込みを行った後、日間最高水温を抽出した（図2、図3、図4）。

3. 結果

調査期間を通じての最高水温は、佐惣平橋（27.3℃）、八田部橋（28.5℃）、平篠橋（30.9℃）であった。今回の調査区間は主にアユ漁場として利用されており、8月には25℃を超える状況にあり、溪流魚が夏期を越すには厳しい状況にあった。

丹生川漁場は、工事による立ち入り禁止区域が設定されており、漁場下流部に溪流魚を放流しているが、立ち入り禁止が解除された時点で漁場上流に溪流魚、漁場下流にアユを放流することが望ましいと思われる。



図1 データロガー設置場所



図2 佐惣平橋の日間最高水温推移



図3 八田部橋の日間最高水温推移



図4 平篠橋の日間最高水温推移